

コンクリート技士・主任技士試験を受験した背景は時代や地域によって大きく変わる。そこで年代、組織内で立場が異なる方々に技士、主任技士を取得した経緯やその活用方法などについて聞いた。

福井宇部生コンクリート

南谷哲彦社長



大学でコンクリートなど土木材料学を専門に修め、1970年当時はずいぶん生コン工場を経営していた。大学で学んだ技術、知識を活かしたいと考えていたが、当時のコンクリートの製造方法は非常に簡易で、管理方法も大雑把だったという。そんな時代に始まっ

時代の変化を予感

信じた。自ら資格を取ること、技術者としてのアピールだけでなく、自社の生コン品質を向上させ、当社と他社との差別化につながる第一歩になると思い、受験した。第一回試験合格者という誇りを胸に現在も経営の舵

を取ら。技士取得後、質の良い生コンを提供するためにも社員教育の充実、他社との差別化で競争力をつける必要があると考えていた。そこで生コンの材料管理、製造、納入、ポンプ

向上に貢献した。資格取得当時から行った社内勉強会は現在も継続中で、他社に負けない品質の確保に取組んでいる。これからの技術者に期待することは「生コンは人々の生活を守る大事なインフラの基礎であり、その国土と人命を

守るという役割を担っている。私たちこそがその大事な役割を果たしているのだという自覚をもって真摯に向き合ってほしいと語る。そのためにも指示待ちの製造工場ではなく、顧客が有利になる技術提案を積極的に出すことが必要とし、「技術、知識を最大限に活かし、業界の未来を切り開いてほしい」とエールを送った。

視野と人脈を広げる資格